

大学における環境負荷は、生産・販売といった企業における経済活動に伴うものと異なり、研究・教育活動に伴うものです。このような活動に伴う環境負荷を小さくすることに、東京工業大学は全学で取り組んでいます。このダイジェスト版は新入生諸君に先輩達の活動を知ってもらうため作成しました。キャンパスライフの中で常に「環境への配慮」を忘れないでください。

## 環境報告書目次

1. 環境報告書の作成にあたって
2. 学長あいさつ
3. 東京工業大学環境方針
4. 東京工業大学の概要
5. 環境配慮の取組体制
6. 環境配慮の目標、計画、実績等に関する総括
7. 研究・教育活動と環境負荷の全体像
8. 理工系総合大学としての先進的環境マネジメント
9. エコロジカルで持続可能な社会の創生に資する科学技術研究
10. 持続可能な社会の創生への人材育成
11. 環境負荷の低減
12. 学生の環境保全活動
13. 社会貢献活動
14. 構内事業者の取組
15. 編集後記

一度ホームページを覗いてみてください。

環境報告書2007公開アドレス  
<http://www.gsmc.titech.ac.jp/kankyuhoukoku/top.html>

お問い合わせ先

国立大学法人 東京工業大学  
総合安全管理センター

〒152-8550 東京都目黒区大岡山2-12-1  
Tel: 03-5734-3407 Fax: 03-5734-3681  
E-mail: anzenkanri@jim.titech.ac.jp  
URL: <http://www.gsmc.titech.ac.jp>

東京工業大学環境報告書2007ダイジェスト  
(編集・発行: 東京工業大学環境報告書2007検討作成WG)  
平成20年3月発行

# Environmental Report 2007 Digest Version 環境報告書 ダイジェスト版

## 東京工業大学環境方針

### 1. 基本理念

世界最高の理工系総合大学を目指す本学は、環境問題を地域社会のみならず、すべての人類、生命の存亡に係わる地球規模の重要な課題であると強く認識し、未来世代とともに地球環境を共有するため、持続型社会の創生に貢献し、研究教育機関としての使命役割を果たす。

### 2. 基本方針

本学は、「未来世代とともに地球環境を共有する」という基本理念に基づき、地球と人類が共存する21世紀型文明を創生するために、以下の方針のもと、環境に関する諸問題に対処する。

#### (1) 研究活動

持続型社会の創生に資する科学技術研究をより一層促進する。

#### (2) 人材育成

持続型社会の創生に向けて、環境に対する意識が高く豊富な知識を有し、各界のリーダーとなりうる人材を育成する。

#### (3) 社会貢献

(1)及び(2)に掲げる研究活動、人材育成を通じ、我が国のみならず世界に貢献する。

#### (4) 環境負荷の低減

自らが及ぼす環境への負荷を最小限に留めるため、環境目標とこれに基づいた計画を策定し、実行する。

#### (5) 環境マネジメントシステム

世界をリードする理工系総合大学にふさわしい、より先進的な環境マネジメントシステムを構築し、効果的運用を行うとともに、継続的改善に努める。

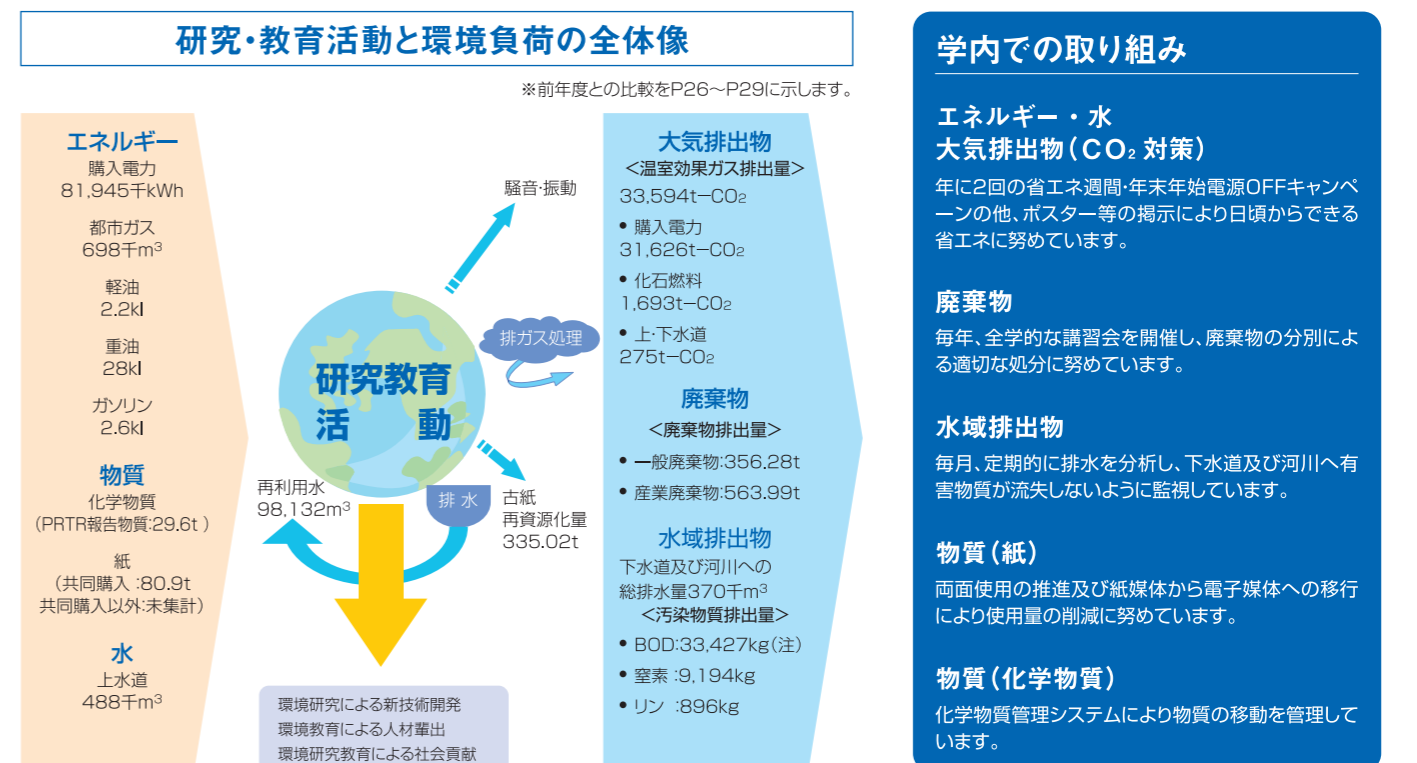
#### (6) 環境意識の高揚

すべての役職員及び学生に環境教育・啓発活動を実施し、大学構成員全員の環境方針等に対する理解と環境に関する意識の高揚を図る。

2006年1月13日  
東京工業大学長 相澤益男

## 研究・教育活動と環境負荷の全体像

本学は、研究・教育が主な活動となりますが、それに伴い多くのエネルギーとさまざまな物資を消費しています。エネルギーは主に電力、ガスとなります。また、主な物資は水、紙、化学物質です。これは、最先端の研究活動及び教育(人材育成)活動のための消費によるものです。本学の活動に伴う環境負荷の全体像は下図のように表されます。



(注) : 排出口での実測濃度の年間平均値に、排水年間総量を乗じて算出

### 学内での取り組み

- エネルギー・水**  
大気排出物(CO<sub>2</sub>対策)  
年に2回の省エネ週間・年末年始電源OFFキャンペーンの他、ポスター等の掲示により日頃からできる省エネに努めています。
- 廃棄物**  
毎年、全学的な講習会を開催し、廃棄物の分別による適切な処分に努めています。
- 水域排出物**  
毎月、定期的に排水を分析し、下水道及び河川へ有害物質が流失しないように監視しています。
- 物質(紙)**  
両面使用の推進及び紙媒体から電子媒体への移行により使用量の削減に努めています。
- 物質(化学物質)**  
化学物質管理システムにより物質の移動を管理しています。

青枠は学内での取り組み

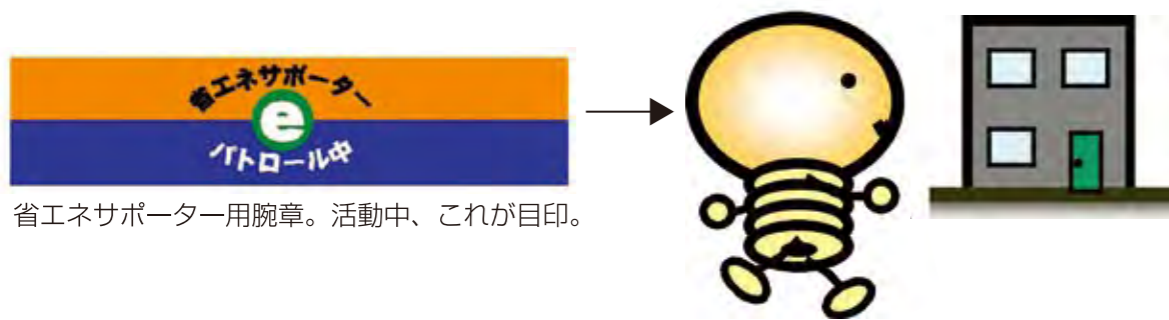
## 学生の環境保全活動

### 省エネサポーター

全学構成員の省エネルギー意識の高揚及び省エネルギーの推進・展開を目的として、専攻ごとに選出された学生を「省エネサポーター」に登録し、共有スペース等の省エネルギー状況について、点検・確認等を行いました。2006年度は116名の学生を登録しました。

#### ■具体的には次のような活動を行いました。

- ▶利用されていないスペース等の蛍光灯・空調機及び複写機その他OA機器類等の電源を切る。
- ▶共有スペースの室内温度を確認し、適温となっていないスペースについては、推進責任者に報告を行う。
- ▶照明器具本体(反射板等)の清掃状況の点検・確認を行う。
- ▶空調機フィルターの清掃状況の点検・確認を行う。
- ▶以上4項目の実施結果を報告書に記入して提出する。
- ▶提出された報告書に対して、改善できる項目を推進責任者に報告。推進責任者より各居室に是正させた。



省エネサポーター用腕章。活動中、これが目印。

### 公害研究会

公害研究会は、環境問題や科学技術に関心のある学生の自主的な集まりです。35年以上の間、学内外を問わず活動を行っています。

#### ■"Think as Scientist, Act as Student"

公害研究会では、科学技術者の卵として確かな知識を身につけ(Think as Scientist)、また、学生らしく身近なところから行動していく(Act as Student)ことを目指しています。

そのために、環境問題についてのゼミを基幹活動とし、「学び考えること」を大事にしています。その知識を基盤に、実践的な活動を行います。2006年度は工大祭でパネル展示を行い、約300人の方にご来場いただきました。また、汚染の実態を自分たちで測定するフィールドワークとして、多摩川の水質調査を行いました。さらに、第4回全国大学生環境活動コンテスト(エココン)に参加し、他団体と交流を深めてきました。

#### ■2006年度の主な活動

学内での活動として、11月にゴミの分別を呼びかけるポスターを掲示しました。これは、学内のゴミの分別状況が芳しくないという問題意識があり、自分たちにできることはないかということで、制作に踏み切りました。制作にあたっては、清掃業者の方にインタビューを行い、現場で実際に問題となっている点を重点的に呼びかけました。また、学内の他サークルに作画を依頼し、注目されやすいものを目指しました。計10ヶ所に掲示し、各所から反響を呼んでいます。



### 学生参加の「環境懇談会Quelle(クヴェレ)」

本学のキャンパス内で環境保全活動に学生が参加する組織として、2004年7月に数名の有志活動から始まった、生協・大学・学生の三者による環境懇談会ですが、今年で3年目を迎え、2006年度末から「環境懇談会Quelle(クヴェレ)」という名称に改名しました。

「環境懇談会Quelle」は、「できるところから環境活動をしていこう!」を合言葉に、本学キャンパスを舞台に活動している環境サークルです。実働的な部分は学生が活動していますが、活動のサポートや大学の運営に関わる問題に関しては、大学事務局や東工大生協、環境保全室の職員の皆さんの協力に支えられています。また、本学の環境サークル公害研究会との交流も図り、新たな視座を加えて活動を続けています。

#### ■2006年度の主な活動

##### ▶講義室のゴミ箱調査(ゴミ集積所見学)

以前から問題視されていた講義室ゴミ箱の設置状況について調査を実施。今後、この結果を基に対策を立てていく予定。

##### ▶工大祭の模擬店で使用されるプラスチック容器の回収

工大祭2006で、プラスチック容器回収を実施。工大祭2007に向け、非石油由来のエコ容器の全面使用について、工大祭実行委員と協議が進行中。

##### ▶リサイクル弁当容器の回収

2005年度に設置した回収BOXについて、回収した容器の枚数を掲示。また、新入生には、毎年ガイダンスを実施。

##### ▶フェアトレード普及活動

購買部での継続的なフェアトレード商品の販売と及び工大祭2006において、フェアトレードを紹介する模擬店を出店。

##### ▶両面コピー奨励ポスター

紙資源節約のため、両面コピーの方法を示したポスターを生協のコピールームに掲示。

##### ▶自転車譲渡仲介

3月26日の卒業式当日に、大学が放置自転車を減らす目的で実施した不用自転車の無料回収時に合わせ、保健管理センター前の駐車場にて、環境懇談会Quelleで自転車の譲渡仲介をしました。

自転車に関しては、卒業などを理由に不用になった自転車が構内に大量に放置され、以前から問題になっており、また、それらを処分する際には、防犯上の理由などから、まだ使用可能な自転車でも廃棄しなければならず、環境的な観点からも改善が求められていました。

そこで、大学の不用自転車無料回収の実施に合わせ、回収場所に持ち込まれた自転車の中から、まだ使用できる自転車は、大学の廃棄受付ではなく環境懇談会Quelleに譲ってもらい、在校生に引き渡すという仲介作業を行いました。

大学による無料回収自体も今回が初めての試みであり、不用自転車の回収台数や、譲渡希望者数等、全く予測できない状況でしたが、大岡山キャンパスでは、80台程度の不用自転車が回収されたとのこと。そのうち、14台を在校生に譲渡することができました。予想以上に自転車を欲しいという学生は多く、後日話を聞きつけて、まだ譲ってもらえるかという問い合わせが来り続けた。

しかしながら、自転車再利用を広めていくには、様々な問題があることもわかりました。また、今回は、卒業式の日だけの実施でしたが、今後は、より多くの人に利用してもらえよう、実施日や譲渡方法などを検討していきたいと考えています。

